

—電子情報科—

電子計測、電子制御、情報処理の基本的な知識と応用技術を習得し、卒業後はロボットなど新しい技術を生かした情報産業への就職を目指す。先端技術であるエレクトロニクスとコンピューターをドッキングさせ、同系の学科としては岡山県の玉野高に次ぎ全国「第2号」となる。

電子機器実習室



本県の産業構造を見ましても、電子関連企業及びロボットなどメカトロニクス関連企業の進出は著

地元の期待に

教える立場から



清水紀久雄先生は、本県では、コンピューター教育の先駆者的な存在であり、甲府工高から電子情報科の科長として赴任されました。

清水先生……メカトロニクスという造用語に象徴されますように、現在ではあらゆる工業技術の中にエレクトロニクスが浸透しています。

しいものがあります。

本校では、パーソナルコンピュータ四十台を基本に、その周辺機器の整備によりシステムの充実を図り、コンピュータを利用しながら学習を行います。また、プログラム作りの基礎を学び、難しいものは実践をとおして、各個人のレベルに合わせて指導し、全体のレベルアップを図りながら学習して行こうと思います。

具体的にはどんなことを学ぶわけですか？

清水先生……テレビや電話などの制御技術、コンピュータの保守管理や応用技術などを学習します。基本的なことをしっかり学び、社会にでてその変化に対応できるように教育をめざしております。

進路指導の立場から



三枝泰清先生……都留一中三年の学年主任であり、都留学区進路対策事務局長でもあります。

三枝先生……電子情報学科は、産業全般におけるOA機器化と言った社会の変革の中で、それに対応するための人材の確保といった社会的な要求の下に新設された学科であると認識しております。

進路指導のさいには、父兄や生徒には、今述べましたように、時代に対応した学科であることを説明してきました。ただ、私どもの学校から電子情報科を受験した生徒の特徴としては、非常にしっかりした考えを持った子どもが多かったと思います。

ようするに、高校ではこんなことを身につけて、それを生かして仕事をするんだ。と言う、将来に対するアウトラインの形成が自分なりにできている子どもが多かったということです。

私たちが、実際に進路指導を行うなかで、この年で将来の生き方まで判断させるといふのは、難しいことです。

また、高学歴化社会と言われるなか、大学進学一辺倒な価値観は薄れ、その多様化が進んでいるのではないかと思います。こんな状況のなかでできた、電子情報科には、親、先生それに生徒も期待していると思います。

新入生の立場から



▲合格発表会場で

臼井守君は、新学科といっても、どこを選んでもみんなはじめての経験だから、自分としては新学科に対しての不安はない。

はじめは、機械科を考えていたが、両親や先生とよく話し合い電子情報科に決めました。コンピューターには、興味があり、もちろんパソコンも持っています。家が鉄工所を営んでいるため、卒業後は家業を継ぐつもりです。

高橋憲君は、小さい頃から機械いじりが好きで、特にコンピューターには興味がありました。卒業後は、コンピューター関係の会社に就職したいと思い、電子情報科に入りました。